

学校教育目標 「知・徳・体の調和がとれ たくましく 生きる力をもつ 子供の育成」

創立150周年を迎えた 地域とともにある学校

令和5年12月21日 第11号

芦屋町立芦屋小学校

文責：勝木 久美

住所：芦屋町白浜町3786

電話：093-223-0059

全校児童数 180名



芦小だより

3つのあ「あいさつ・あんぜん・ありがとう」

想像力 (イマジネーション) と 創造力 (クリエイティビティ)

1年生は1学期から2学期にかけて、生活科の学習でアサガオを育てました。2年生はミニトマトを育てました。朝や帰りに様子を観察して水やりをしていました。授業の中では、スケッチしたり、様子を言葉で表現したりと共有する姿が印象に残りました。

種を植えると芽が出て、土と水と太陽のエネルギーをもらい、自分たちの背丈より高くなるまで成長します。やがて花を咲かせ、実を付けて、最後に種にもどります。植物ではありますが、生命の不思議と科学的思考がふくらんでいきます。「なぜだろう？」がいっぱい詰まっています。子どもたちにとって、毎日の生活は、「不思議」を見つけ、「知的好奇心」をくすぐられ、夢中を生み出す場です。学校の学習も、本来「やらされる」ものではなく「楽しい」「やりたい」ものでありたいと願っています。毎日の小さな積み重ねが「新たな発見」を生み「次なる挑戦」を築きます。

タイトルに「想像力」と記しました。想像力とは「経験していないことなどを、自分の頭の中に思い描くこと」です。アサガオの観察も「想像力」を育みます。先日のある研修で、子どもたちの想像力について話題にあがりました。世の中が「タイムパフォーマンス」を求めるあまり、早くゴールに着くことや答えだけを知りたがる傾向があることを問題視していました。また、「少しでも、相手の気持ち想像できれば、こんなことにはならなかったのに…」という指摘でした。今、全国や世界で起きている悲しい出来事は、この想像力の欠如が要因の一つであると説明されていました。想像力を育む工夫が必要です。

一方、「創造力」は「新しいものをつくり出す力」です。「自分で考えて、ゼロからなにかを作り出す力」となります。予測不可能な未来をたくましく生きるには、与えられた指示どおりに行動するのではなく、自分で問題意識をもって試行錯誤しながら価値を生み出すことが求められています。このように、「想像力」と「創造力」は異なる概念ですが、ふたつの力は密接に関わり合っていると思います。自由な発想による想像力があるからこそ、創造力が発揮され、また自分でいろいろなものを創造していくなかで想像力が培われていくのです。子供たちにとって、想像力と創造力はどちらも欠かせない大切な力です。教職員を含む私たち大人の関わりの中で、この2つの力を育むために私たちにできることは何でしょうか。明確な答えはありませんが、キーワードで表現すると次のような事柄を思い浮かべました。「ごっこ遊びで夢中」「読書をする」「芸術に触れる」「空白の時間をもつ」「物語の世界に浸る」「瞑想をする」「反対の立場に置き換える」「多様性を認める」などです。効果や効率のみを追求せず、時にはしっかり立ち止まって、あれこれ想像する、新たなものを創造する、そんな生活が大切なのだと思います。

福岡県スポコン広場 種目「みんなで なわとび」

6年生 第3位 努力賞 受賞 249回 おめでとう！

「チャレンジランキングゾーン」13種目の中の『みんなでなわとび』に挑戦しました。この種目は、なわにかからずに、3分間続けて跳び越した回数を記録とします。(結果は249回でしたが、練習では300回記録保持) 息(意気)を合わせ、日々の努力が高結果となりました。賞状と副賞に楯をいただきました。 ※「スポコン」とは「スポーツコンテスト」の略です。



こがらし

凧の中で ～ ころあつたかい 芦小の子ども達 ～

漢字は、その多くが中国で生まれました。その中で、日本で作られた漢字（「国字」と言います）もあります。例えば、『凧(こがらし)』です。これは、「風」と「木」の字を組み合わせ、独自の意味を持たせた漢字です。読みは『こがらし』、意味は『木の葉を落とし枯れ木にしてしまうほどの強い風』です。先日の極寒日の登校時間帯、まさに「凧」の字のごとく、横殴りの冷雨と強風が校庭の枯れ葉を吹き飛ばしながら裏門を吹き抜けました。その凧に向かうように、子どもたちは背を丸め、慌てて校地へと駆け入りました。子どもたちを校地内で迎えながら、私も傘を風上に向け両手で強く握り、凧をしのぎました。凧が弱まった一瞬、顔を上げると、校門手前の右折路を渡り切った辺りで、止まった一台の車とその斜め前方に立つ本校児童が見えました。子どもは、車が止まったことを確かめて車前を渡り切ると、体をくるりと車の方へ向き直り、お辞儀をしていました。止まってくれた運転者さんへ、荒天の中でも感謝を表す子どもの姿を目にし、体の芯を凍えさせるような凧が、少し柔らかく感じられました。

「止まってくれてありがとうございます」という価値ある子どもたちの行為に対して、その受け止めが人によって多様であることに驚かされたことがありました。

それは、国道がすぐそばを通る学校に勤務していた時のことです。その学校の在校生にとって、横断後にお辞儀をする姿は代々の先輩の姿を真似ながらやってきた行為であり、ごく日常のものでした。そんな中、運転者の方々からは“止まってくれてありがとう”“安全な登校を見守ってくれてありがとう”等、様々な『ありがとう』が詰まった有り難い声が多く寄せられました。

しかし一方で、“子どものために止まる”というよりも“信号が赤だから止まる”、もっとあからさまに言えば“違反すると罰せられるから止まる”という声や、“立ち止まってお辞儀されたらじれたいので、さっさと歩いてほしいと思います”等、辛辣な声さえも寄せられました。数は少ないながらも、心をも凍てつかせる凧のような多様な受け止めに、学校も悩みました。また、寄せられた声を踏まえ、誇りさえも持ちながら日常継続していた子どもたちに、一体どのように指導していけばいいのかと、思い悩んだことを記憶しています。

🚗 運転免許保有率は、全国で約8割を超えました。子どもたちの多くも、やがて免許を取得し車を運転する時が訪れるでしょう。そして、運転者として、横断しようと立ち止まる子ども等を目にする場面にも遭遇することでしょう。そんな凧の中でもお辞儀で感謝を伝えた子どもは、「小学生の頃、横断待ちで立っていたら、車を止め渡してくれた運転者さんがいたっけなあ…。雨交じりの凧が吹く寒い朝ただけに、あの時はとてもうれしかったなあ～」と芦小時代の自分に重ねて車を止める運転者、そして他者を気遣う心優しい大人へときっと成長を遂げ、臨んでいることと信じています。



絆を深め、心に残る修学旅行(11月29日・30日)



楽しみにしていた6年生の「長崎・熊本」の修学旅行は、2日間とも天気に恵まれ、1泊2日の行程を無事終えることができました。最も6年生の素晴らしいところは、時間に対する意識が非常に高いということです。5分前には集合したおかげで、行程が一度も遅れることなく早く進行できました。この修学旅行で学んだことを、6年生の言動を通して残された3ヶ月の小学校生活の中で、下級生へ伝授してくれるものと期待しています。



平和祈念像のもとで

— 平和への強き思いを受け継ぐ —

戦争や原爆の恐ろしさを次の世代に伝えていくことが被爆者の役目だという思いで、現在も語り部として活動されている小峰さんは当時4歳。爆心地から1.3キロ離れた自宅近くの畑で被爆し、両手、両足、お腹に大やけどを負いました。小学生の時、右足を引きずり、半身で歩く姿を見た同級生に「腐れ足」「ガネ(カニ)」と呼ばれ、いじめられた当時を話されました。真っすぐ歩きたい、その一心で手術の痛みにも耐えたそうです。「足よりも、心の痛みの方がつらかった」の言葉に、子供達は真剣に聞いていました。その後、およそ14メートル高の平和祈念像の前で平和集会を行い、芦屋小全校児童で作った千羽鶴を奉納しました。6年生や私達は、戦争で苦しんだ当時の話を小峰さんから聞いた責任があります。これからの暮らしの中で、これまでの自分の行動を振り返りながら、間違いを繰り返さないように。そして今、自分にできることを考えてほしいと願います。



芦屋小平和への鶴を奉納

150周年記念行事 観劇鑑賞会(11月27日)

「劇団風の子九州」による演劇「やだ、やだ あっかんべー!」を鑑賞しました。約80分の上演時間、子供たちは役者さんのコミカルな演技に引き込まれていました。わずか4人の役者さんで進行する劇で、あるときはおばあちゃん、そして小学生、妖怪になる変わり身の巧みさ、あっという間の舞台変化など、その臨場感を楽しんでいました。子どもたちは、いろいろなことを感じ、考え、学ぶことができたようです。プロで、本物に触れることは、子供たちの感性をより豊かにします。お話は、どこか自信がもてない気の弱い主人公が、人やお化け、妖怪との不思議な出会いや体験を通して、前へ進むとする内容でした。その主人公の姿に勇気と元気をいただきました。



役者さんは何でもできるんだね♪

ラストは、芦屋小学校開校150周年をお祝いして、サプライズでミニコンサートをしてくださいました。ギター、チェロ、マンドリンの音色がとても素敵でした。なお、観劇代820円は、150周年事業への寄付金から、全額負担をして頂きました。どうもありがとうございました。

♪ラストは、芦屋小学校開校150周年をお祝いして、サプライズでミニコンサートをしてくださいました。ギター、チェロ、マンドリンの音色がとても素敵でした。なお、観劇代820円は、150周年事業への寄付金から、全額負担をして頂きました。どうもありがとうございました。

3年生 『団子雛(だごびな)』作り(12月7日)

祖父母学級の方々から、だごびなを教えていただきました。寒い中、朝早くから準備をしていただき、ありがとうございました。どの作品も力作ばかりで感心しました。

芦屋町では、約300年前から伝わる「八朔の節句」という伝統行事が今も続いています。この「八朔の節句」とは、その家庭で初めての男児誕生には、「わら馬」を、女児誕生には、「団子雛(だごびな)」を作り座敷などに飾って、節句の日にご近所に配り、地域で子どもの成長を祈る行事のことで、



真剣に取り組む3年生

5年生 未来の姿を思い描くために ～ 誇りある芦屋町と自分 ～ (12月6日)



芦屋釜の里の土産菓子、『芦屋釜ろん』について熱く語る釜の里職員 新郷 英弘 さん

芦屋で働く方々との交流を通して、社会を身近に感じ、仕事をするこの意味や楽しさ、苦労や願いなど実感を伴った理解につなげる学習です。新郷さん、中西さんと交流する中で、新しい発見に目を輝かせ、真剣に学ぶことができました。



イカを「樽流し漁」で、『一本槍』を釣り続けてきた名漁師の 中西 誠 さん

近隣における不審者情報が相次いでいます。

発見、被害に遭われた際は、速やかに折尾警察署へ連絡をしてください。

学校への連絡はその後で構いません。(折尾署TEL 093-691-0110)

【不審者への対応】

❖ 「いかのおすし」を常に心がける ❖

- ① 登下校に限らず、一人歩きをできるだけ避ける。
- ② 人通りの多い道を歩く。
- ③ 危険や恐怖を感じたら大声を出し、その場から逃げる。
- ④ 近くの店や家に逃げ込むなど、大人に助けを求める。
- ⑤ すみやかに警察へ知らせる。

帰宅したらすぐに鍵をかけましょう。

保護者の方は、子どもの動向を把握しておきましょう。



1月の行事予定

- 8日(月) 成人の日
- 9日(火) 始業式 あいさつ運動
- 10日(水) 給食開始
- 11日(木) 読み聞かせ SSW来校日
- 12日(金) 外国語(6年)
- 15日(月) あいさつ運動 縦割り遊び週間
- 16日(火) 外国語活動(3.4年) 外国語(5.6年) 委員会活動
- 17日(水) 児童朝会 火災避難訓練
- 18日(木) 読み聞かせ 外国語(5.6年) 芦屋中学校説明会 SSW来校日
- 19日(金) 社会見学(特別支援学級)
- 22日(月) 弁当の日(5.6年) 手洗い・消毒チェック週間(~26日)
- 23日(火) 外国語活動(3.4年) 外国語(5.6年) クラブ活動(3年生見学) SC来校日 理科支援員来校日
- 25日(木) 外国語(5.6年) SSW来校日
- 29日(月) 代表委員会
- 30日(火) 理科支援員来校日 外国語活動(3.4年) 外国語(5.6年) 巡回相談
- 31日(水) 中学生とのあいさつ運動



主な行事

2月

- 9日(金) 大縄跳び大会
- 14日(水) 保幼学校見学 古印作り(6年)
- 16日(金) 十歳のつどい(4年) 学級懇談会(4年)
- 22日(木) 学習参観・学級懇談会 (1.2.3.5.6年)

3月

- 1日(金) 6年生を送る会
- 13日(水) 6年修了式
- 14日(木) 芦屋小卒業証書授与式
- 21日(木) 給食終了
- 22日(金) 修了式

今年も大変お世話になりました。
来年も本校の学校運営にご協力とご支援をお願いいたします。

保護者の皆様、地域の皆様、十分お体に気をつけられて どうぞよいお年をお迎えください。

芦屋町立芦屋小学校 職員一同

